

地球の健康を守ろう



工学博士
北野 大

「丘の上の明治大学生田キャンパスまでの坂道を毎日歩いて登校しています。『定年坂』と名付けてましてね。坂は結構急なんです。が、今のところすたすた歩いていきますよ」。テレビ番組などでおなじみの北野大さんは、環境問題が専門なことでも有名な工学博士。大学で化学物質の安全性管理について研究する傍ら、市民や学生に環境問題を分かりやすく伝えるとともに、地球の健康のためにと自らさまざまなアクションを起こしている。

今年3月、経済成長と環境保護のはざまで揺れ動くベトナムを訪れ、JICAの活動や人々の暮らしなどを視察、市民対象の環境講座では循環型社会の大切さを訴えた。「同じ地球に住む人間なのだから、困ったときはお互いさま」と言う北野さんの考える豊かさと環境のバランスとは――。(続きは裏ページへ)

工学博士

北野 大

Kitano Masaru

1942年東京都出身。工学博士。72年東京都立大学大学院工学研究科博士課程修了後、(財)化学品検査協会(現化学物質評価研究機構)、淑徳大学教授を経て、2006年から明治大学理工学部教授。テレビ・ラジオのニュースやバラエティー番組などでも活躍。経済産業省化学物質審議会委員、環境省中央環境審議会委員などを務める。『環境ホルモンから家族を守る50の方法』(監修、かんき出版)、『ドクター北野の地球なんでも好奇心』(NHK出版)、『循環型社会への提言』(研成社)ほか著書多数。04年日本分析化学会・技術功績賞受賞、06年環境科学会・学会受賞。6月20日(水)18時半～、JICA地球ひろば(東京・広尾)でベトナム訪問と環境問題の講演会を開催する。



photos by Kamazawa Kyuya

私たち先進国の人間は環境を無視して経済発展を突き進め、悲惨な公害を経験しました。ですから、途上国の人たちに同じ過ちを繰り返してほしくない。経済が良くなれば環境も良くなるし、環境を良くすることで経済も成長するという、経済と環境の良循環=循環型社会を目指してほしいのです。しかし、彼らにとっては経済と環境配慮は相反するもの。環境を考える前に、まず、ものの豊かさを追求します。私がベトナムで行った環境講座でも、「環境を考えていたら豊かになんかなれない」という意見が市民から出ました。もちろんその気持ちは分かりますし、彼らの発展欲求を私たちが否定することはできません。

しかし、ベトナムも豊かになればバイクに代わって車が増え、さらなる大気汚染といった環境問題の深刻化は避けられません。公共交通機関などできるだけ環境に負荷を与えないインフラの整備とともに、鉄道とマイカーを併用するなど生活面でも対策が求められるでしょう。先進国の失敗を教訓に、いかにして、ものの豊かさを求める心と環境の豊かさを求める心を共生させ、ライフスタンダードを変えずに環境にうまく適した形にライフスタイルを変えるか。それがベトナムの人々にとって、今後問われていくことだと思います。

ベトナムでは、専門家から青年海外協力隊、シニア海外ボランティアまで、本当にたくさんの方にお会いしました。皆さんに共通していたのは、活動に生きがいを感じていること、すごくはつらつとしていましたね。根底には、ベトナムへの愛情があるのでしょうか。

義務だから、お金をもらっているからではなく、好きなベトナムに少しでも貢献したいという強い気持ちで伝わってきました。

これはJICAならではだと思いません。多くの日本人がベトナムにいますが、ここまで現地の人々との付き合いが深いのは、草の根の支援を大切にするJICAだからできるのでしょうか。そのことをベトナムの人も喜んで感謝してくれる。決して恩を着せるわけではありませんが、やはり感謝されるとやりがいにもつながりますよね。

ODA事業といえば、病院や橋などの建設というイメージが強かったのですが、最近は人材育成などソフト的な支援が目立っています。3R 運動の推進やハノイの交通事故をどう減らすかなど、ライフスタイルの転換に直接踏み込んだ協力もあります。援助すべてに言えることですが、いかに彼らが自立できるかが重要です。その意味で私は、ぜひもっとたくさんの外国人が日本で働ける環境をつくるべきだと思います。期間と人数をきちんと限って日本で技術を学び、自立への素地をつくってもらおう。草の根で人的交流を深め、日本を好きになってもらう。少子高齢化で労働力が逼迫する日本のためにも良いはずですよ。

また、私の専門である化学物質の安全性に関しても日本は多くの面で協力できると思います。化学物質は諸刃の剣ですから、なければ今の生活は成り立ちませんが、一方でいろいろな影響を与えていることも事実です。農薬も使い方を誤れば有害性が生じることがあります。安全な使用法をきちんと理解してうまく使っていく、この面でもお手伝いしたいですね。